

がんと暮らしの白書

2019 年度版

2021 年 3 月 3 1 日

 NPO法人
がんと暮らしを考える会



創刊にあたって

がんと暮らしを考える会が初めて集まりを開いたのは、2011 年 3 月 24 日。東日本大震災の約 2 週間後で震災前からの予定を、そのまま実行した形でした。

多くの人が震災という事態に動揺していましたが、非日常の時期にあっても日常の課題解決を止めないと決めていたのは、私自身が阪神大震災の被災者であったからでもあります。

活動の目的としては、次のようなものでした。

- ・ 経済的に困っているがん患者さんの支援方法を議論する場を作る必要があった
- ・ 問題提起だけでなく、問題解決が必要であった
- ・ 医療従事者が信頼できる多職種の専門家を顕在化させる必要があった
- ・ その専門家が集まり共に学びあい、考える場が必要であった

その流れのまま 2013 年には NPO 法人化し、上記の目的に対してダイレクトに突き進む、「強い理念を持った団体」として存在してきました。

活動は多岐にわたっており、様々なトライ & エラーを繰り返しながら現在の形に至っています。その中で私たちが重視してきたのが、「事例」でした。

がん患者は様々な経済的問題、就労問題に直面しています。職歴、家族背景、居住地、年齢、貯蓄など多様なバックボーンを持ち、病状、症状、本人の認識、家族の反応など多様なシチュエーションにおいて、「困りごと」は生じています。

複雑ではあり「みんな違うから」と言い訳をして思考停止するのは簡単でした。しかし、そこで深めて「変えられること」と「変えられないこと」を見きわめる労力を抜きにして、未来のがん患者ケアを改善していくことはできません。

2011 年に活動を開始してから、制度のことや専門家のことを詳細に精査していったときも、すべて「事例」を足掛かりにしてきました。2013 年から始まった病院での「お金と仕事の相談会」においても当初から「事例」の蓄積を行ってきました。

そこから、がん患者が直面する「派遣・契約社員」、「個人事業主」、「事業承継」など様々なシチュエーションについて深める機会を得て、さらに「家計における固定費」、「60～65 歳問題」、「がんと離婚問題」など新たな課題を見出すことができました。2011 年から続く、がんと暮らしを考える会の 10 年間の歩みは、「事例」とともにあるといえます。

10 年を振り返って感じることとして、私たちが取り組む社会的苦痛の分野においては、社会が変わると変化していました。さらに人々の認識や価値観も十分に変化しています。

その一方で客観性を持つべきケアギバーの私たちこそが、ときとして思い込みを持ち、支援の在り方をパターン化してしまう危険性も感じています。

がんと暮らしを考える会が、病院や施設での相談事例を白書として集計することの意義は、ケアギバーとしての私たちが、すでにある課題を再認識し新たな解決方法を早期に確立するための資料として整理していく必要があります。

またそれを社会に公開する意義としては、行政や制度の窓口担当者・保険担当者・銀行窓口担当者などが、がん患者に対するケアギバーとして、サービス向上や制度改善のヒントとして有効活用していただきたいと切に願っています。

特定非営利活動法人がんと暮らしを考える会 理事長 賢見 卓也

目次

創刊にあたって	2
目次	4
第 1 章　がんと暮らしの過去・いま・未来	6
第 2 章　がんと暮らしを支えるリソース	10
1.　がん制度ドック	10
1)　がん制度ドックとは	10
2)　利用状況	10
3)　アンケート結果	11
4)　活用事例	12
2.　お金と仕事の個別相談事業	13
1)　お金と仕事の個別相談事業とは	13
2)　実施状況	13
3)　がん疾患における相談者・相談内容の内訳	14
4)　非がん疾患における相談者・相談内容の内訳	20
3.　講座「がん制度大学」	21
1)　講座「がん制度大学」とは	21
4.　知恵を出し合う会（専門職向け）	23
1)　定期会	23
2)　全国フォーラム	24
3)　オブザーバー制度	24

第3章 巻末資料	25
1. 個別相談事業 実施機関	25
2. 活動・講演等	25
3. メディア掲載情報	39
4. お金と仕事の個別相談事業・集計表	45

第1章 がんと暮らしの過去・いま・未来

賢見 卓也（特定非営利活動法人がんと暮らしを考える会 理事長）

2006 年、私は 7 年間勤務した大学病院の看護師を辞め大学院に行っていました。その理由は、小泉政権による聖域なき構造改革による危機感からでした。

在宅緩和ケア訪問看護ステーションの起業に目を向けていた私にとっては、医療制度改革による診療報酬の引き下げは、患者さんにとっても医療従事者にとっても不安を感じるものでした。

そんなとき私が手にした本が大前研一著「ロウアーミドルの衝撃」¹という書籍でした。その一説に『日本人は、老後に備えるという同じ目的のために、年金、貯蓄、保険という三重の投資をしている』と書かれていました。欧米ではそのうちのどれか 1 つで十分やっていくことができていると。中間所得者層の崩壊に気づくとともに、日本人には公的制度・民間保険・貯蓄/資産という十分な財源があるはずだということを考えるきっかけになりました。

2007 年には生命保険のリビングニーズ特約（余命 6 か月以内と診断された場合に死亡保険金の一部または全部を生前給付として支払うことができる無料の特約）の有効活用によって、医療制度改革によって削られた医療費を補填する可能性を考えました。

2008 年の修士論文の時点で私が調べた、野口ら²の文献では「終末期の病名告知率」は患者本人 45.9%・家族 95.8%、「終末期の余命告知率」患者本人 26.6%・家族 90.8%とでした。

今では考えづらいことですが、医師の告知がなされないことで制度を活用できるタイミングを失っていたのです。

¹ 大前 研一、ロウアーミドルの衝撃、講談社、2006。

² 野口海、松島英介ら「日本における尊厳死の現状について」保険医療科学、2006

また同時期に生命保険の不払い問題（2005～2008 年）が世間を騒がせていました。この問題の構造の一部が「申請主義」でした。契約者が、制度を知っていること・条件を満たしていること・書類を提出することを満たさない限り、権利行使ができない制度設計について学びました。在学中から訪問看護ステーションで勤務をしていた私がふと気づいたのは「介護保険制度も同じだ・・・。」ということでした。

2009～2010 年は、近藤明美さん³らと「がん患者における治療と職業生活の両立支援モデル事業」に携わることになりました。これが後に第二次がん対策推進基本計画に盛り込まれ、いわゆる「就労支援」につながっていく取り組みでした。その当時は民主党政権下で失業率も 4% 台と高いため労働問題がより鮮明に見えたものでした。

この間、医療機関によるがん患者の暮らしへの関心は薄かったと言わざるを得ません。そのため、2011 年に医療従事者を巻き込んだ形で、がんと暮らしを考える会の活動を開始しました。

風向きの変化を少しずつ感じたのは、2010 年以降からベバシズマブ・セツキシマブなどの分子標的薬が普及しはじめたところからだったと記憶しています。

分子標的薬はがん患者さんの暮らしに、2 つのことをもたらすきっかけになりました。

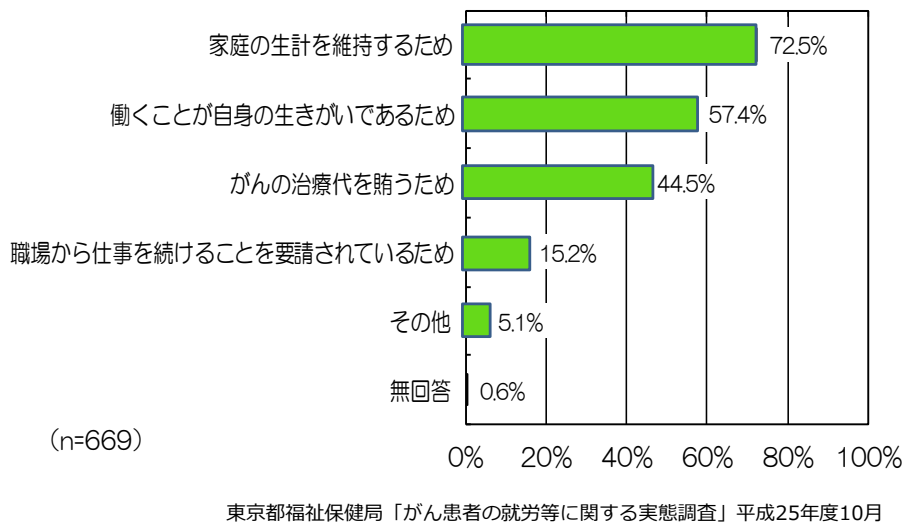
一つは延命効果で、がんの種類によっては数年間の延命が可能になりました。もう一つは、治療費が高額化しはじめたことです。従来の抗がん剤の薬価が 10 万円以下/月だったのに対して、ゲフィニチブが登場してから数十万円/月（毎日新聞 2016 年 4 月 5 日記事より）の医療費がかかることが当たり前になり、さらに本庶先生のノーベル賞受賞で有名になった免疫チェックポイント阻害薬ニボルマブが 2014 年に登場したことで約 300 万円/月まで医療費がかかることになりました。このことは医療機関だけではなく社会問題としても大きく取り上げられるようになりました。

メリットは、「がんに罹患しても治療を続ければ、生きることができるようになった。」といえるようになったこと。デメリットとしては、「生きるためには、治療費の負担が大きくなった。」ことでしょう。

³ 近藤社会保険労務士事務所 特定社会保険労務士、NPO 法人がん暮らしを考える会 副理事長

東京都が 2013 年に行った調査によれば、仕事を続けたい理由として、「家計を維持するため」「がん治療費を賄うため」が大きな割合を占めており、2010 年代以降は家計への影響は続いています。

仕事を続けたい理由とは



こうして高額療養費制度・傷病手当金・障害年金などの公的制度が、家計の支えとなっていくものの、罹患前よりも収入が減少しているという状況は一時的なものから長期的なものへと変わってきました。2015 年ごろからは固定費の圧縮の必要性を啓発するようになりました。これが、がん罹患後の生活再構築です。

これまでがん患者さんの実態について、大規模な調査を行うことなく、仮説をもとに妥当な支援方法を見出してきたように感じます。

収入減少と切り崩し

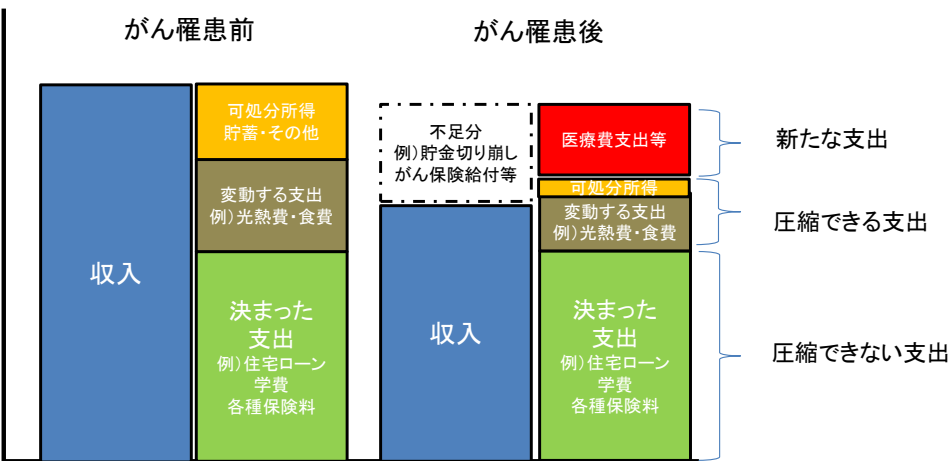


図1 がん罹患前後の収支のバランス

賢見卓也:「がんサバイバーの経済的痛みを支える」、医学の歩み、252巻13号、2015/3/28、医歯薬出版、

そして、現在、2020 年から新型コロナウイルスの影響で、人々の生活・価値観・働き方が変わりました。ニューノーマルと呼ばれる新しい価値観はどこに向かうのでしょうか。

間違っているかもしれませんが、あえて予測してみました。

- ・ お金を使わない生活ができる
- ・ 学習の機会が増える
- ・ 主体的に仕事をする人が増える

2020 年の新型コロナウイルスの影響で変わったこととして、インターネットとの距離が近くなったことです。これは Web サイトに限った話ではありません。

LINE やアプリなどによる行政からの情報発信が身近になり、YouTube は医療従事者や専門家による高精度で豊富な情報を学ぶことができるようになりました。テレビを見て辟易した人は Amazon Prime や Netflix で楽しみを見つけた人もいるかもしれません。自宅から Zoom やクラウドサーバーを用いて事務作業をこなすようになり、職場の人間関係を気にせず仕事をすることもできるようになります。そして、人が集まる機会が減ることで、着飾る必要はなくなり飲食代もかからなくなり、お金を使わない生活ができるようになります。

たとえ新型コロナウイルスがおさまったとしても、もう満員電車や渋滞に巻き込まれるだけの時間に意味を見出せなくなるのではないのでしょうか。

そして、人が動かなくていいこと、お金を使わなくてもいいこと、情報を取りやすくなることは、がん患者さんにとってメリットとなることではないかと想像しています。

社会が変わると、社会的苦痛が変わり、支援方法も変わります。皆さんとともにベストな支援方法を考えていきましょう。

第2章 がんと暮らしを支えるリソース

1. がん制度ドック

1) がん制度ドックとは

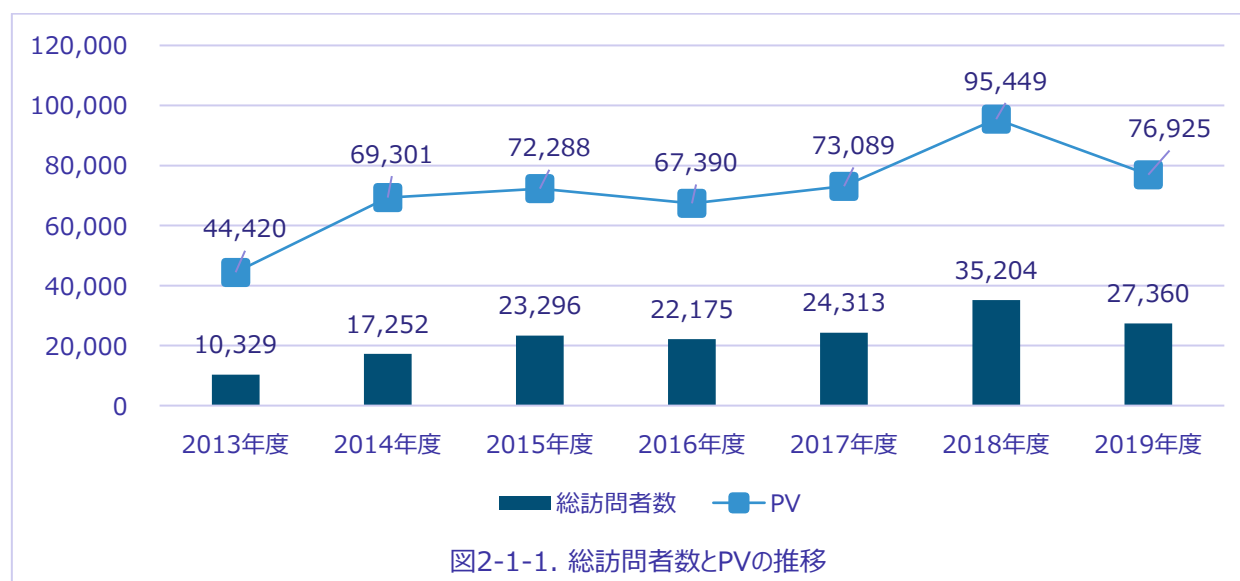


<http://www.ganseido.com/> (2013年～)

- がんと診断された患者さんが使えるお金に関連する制度（公的・民間医療保険制度）をまとめて検索できるサイト
- 誰でも無料で利用できる
- イチから難しい制度を学ぶのではなく、現在の病状・体調・ご希望に合わせて、患者さんが利用できる可能性のある制度や申請窓口の情報に、簡単にたどりつけるように設計
- 病院のがん相談支援センターや病棟で、患者さんと一緒に検索していただくこともできます

2) 利用状況

Google analytics を用いたアクセスログでは、総訪問者数は開設当初 10,329 ですが、2017 年度以降の直近 3 年間は 7,0000 台を超える訪問者数となっています。Page View(PV)も 2,000 台を超え、2018 年度には 35,000 を超える PV 数も計測されました。また、データ未記載ですが直帰率（サイト上のページを閲覧せずに立ち去る率）は 75% 前後で推移しており、訪問者の 25%程度は何らかの情報をサイトから得ているようです。



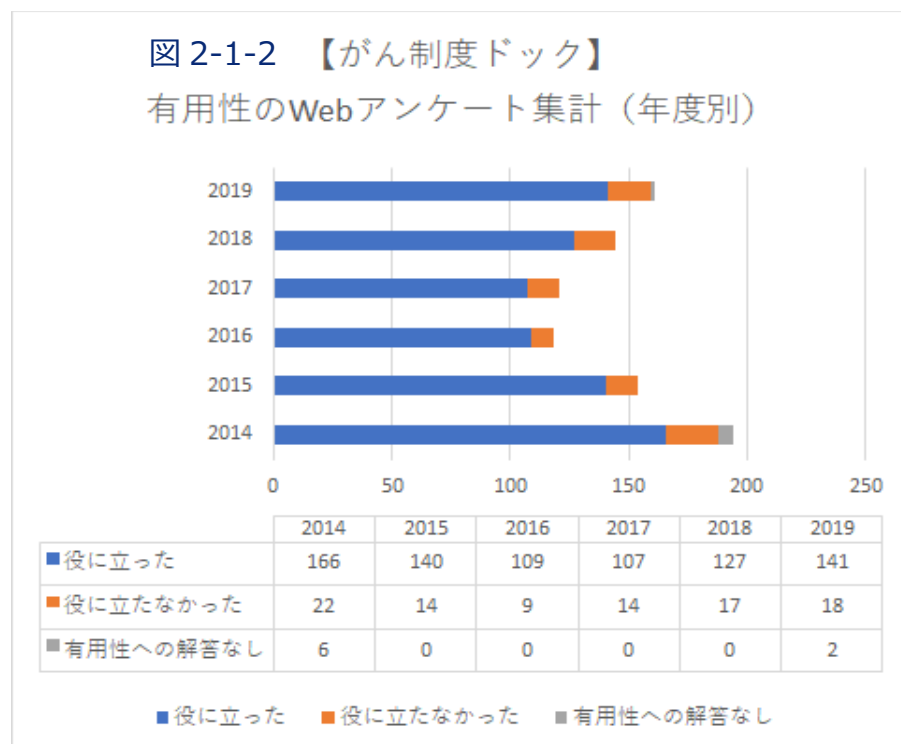
また、がん制度ドックの Web サイトは、医療機関、自治体の図書館、民間組織等の Web サイトでもリンクが掲載され、紹介されています。（<http://www.ganseido.com/news/>）

表 2-1-1. ウェブサイト「がん制度ドック」の掲載例

区分	掲載数	掲載機関
自治体	4	茨城県、宮城県、山口県、埼玉県
図書館	2	和歌山県立図書館、埼玉県立久喜図書館
医療機関・がん関連組織	5	医療法人公慈会 公平病院（埼玉）、徳島がん対策センター（徳島）、長岡赤十字病院（新潟）、三重県がん相談支援センター（三重）、青森県立中央病院（青森）
企業	1	株式会社ポーラ（社内サイト）
総数	12	

3) アンケート結果

がん制度ドックの有用性に関する Web アンケートの集計結果を、図 2-1-2 に示します。β 版公開後の 2014 年より、Web ページの評価を行うため、「役に立った」「役に立たなかった」の選択式質問と自由記載欄を設けたアンケートページを作成し、訪問者に評価していただいています。訪問者数に対する回答者の割合は、0.4%から 1%程度で推移しています。回答者からの評価はすべての年度で 85%以上の方が「役に立った」と回答されています。一方で、「役に立たなかった」の回答もありましたが、その理由を記す自由記載欄では「すでに知っている内容だった。」「申請漏れがないことは分かった。」等のご意見が多く、「申請内容を確認できるサイト」としての機能を有していると考えられます。



4) 活用事例

がん制度ドックは、個人情報を集めないサイトであるため、実際にどのような方に活用されているか詳細はわかりません。把握できているのは活用された皆さまからの直接メッセージをいただいたケースに限っていますが、多くは①患者さん・ご家族、②医療従事者、③患者団体の関係者の方からです。

寄せられたコメントの傾向としては次のようなものがありました。

- 「すでに知っている（利用している）制度であった」
がんに関係する制度の多くが、何かしらの身体症状があることや働けないことを条件としたものになっています。そのため、症状の悪化がなく、つらいながらも通院でき、仕事ができる患者さんの多くは、一般的な制度を利用することが多いからではないかと思います。
- 「取りこぼしがないことを確認できた」
すでに知っている制度しか出てこないことで残念であったというコメントがある一方で、このように利用できる制度の取りこぼしがないことを確かめることも、安心や納得のきっかけになったようです。
- 感謝の言葉
知らない制度が見つかったこと、申請先がわかったことなど感謝、喜び、安堵の言葉が多くいただきました。
- 現在の状況について困っていること、不満なこと
治療状況のこと、生活状況のこと、サイトの情報不足の指摘など、つらさや不満・怒りなどの表現も多くいただいています。
- 要望・質問
制度に関する質問、申請手続きに関する質問、制度設計に対する要望、サイトの掲載情報に関するアドバイスなどが寄せられています。

ここで感じられたこととして、利用する患者さんの経済的な具合と期待値によって回答に関する感想が異なっていることです。Web サイトでできることの限界でもあるのですが、期待を下回る結果になったときに、どういった支援があるか・・・そういった方々に配慮したサイト作りが求められていることを感じました。

2. お金と仕事の個別相談事業

1) お金と仕事の個別相談事業とは

お金と仕事の個別相談事業 （2013 年～） <https://www.gankura.org/medical/>

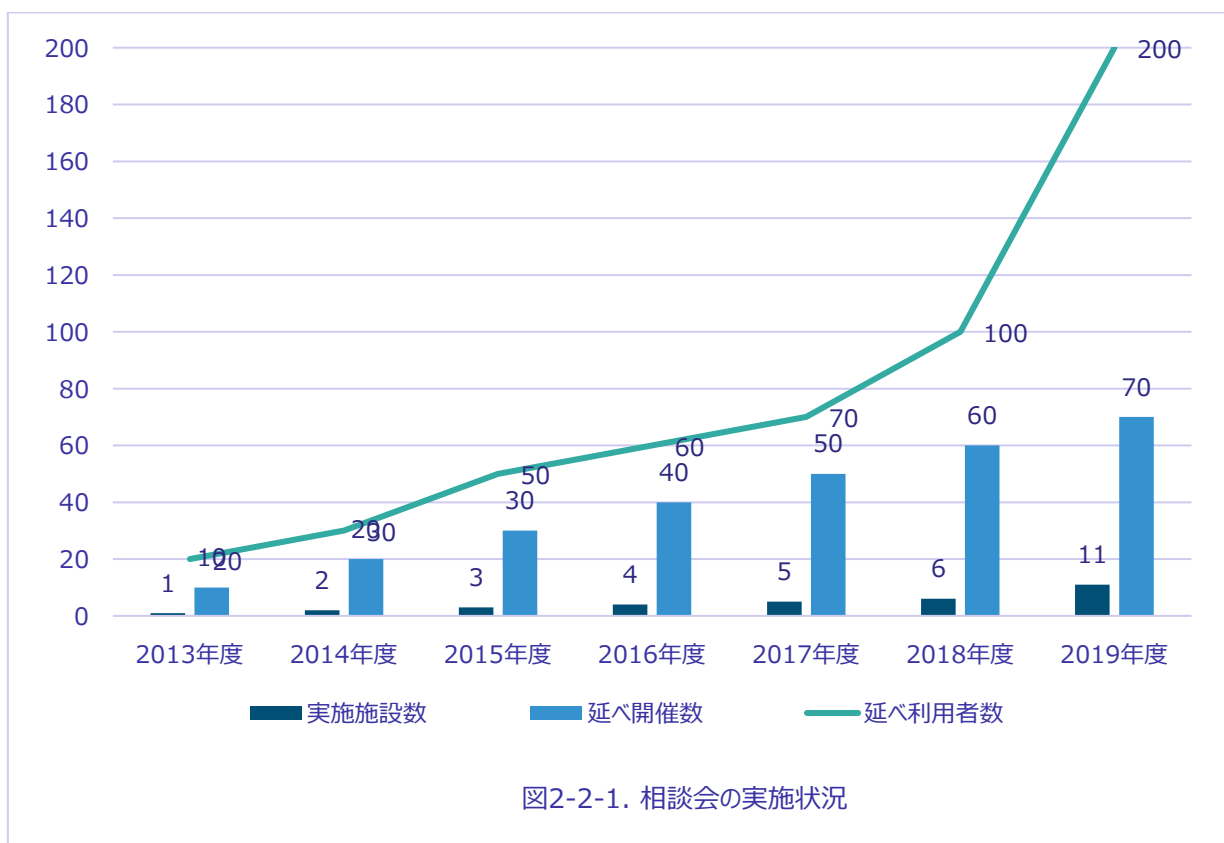
■ がん診療連携拠点病院で、「お金とお仕事」の個別相談事業をスタート

■ コンセプトは、お金の相談ができること、仕事の相談ができること、医療従事者だけでは難しい相談ができること

■ 社会的苦痛の軽減には、①資産・金融商品の専門家（ファイナンシャルプランナー）と②労働法と年金の専門家（社会保険労務士）がペアで相談事業を行うことにより、就労問題と経済的問題を包括的かつ網羅的にがん患者さんの支援をすることができます。

2) 実施状況

年度別・実施施設数・開催件数・利用者数



3)がん疾患における相談者・相談内容の内訳

本白書では、2017 年～2019 年データの集計結果を報告します。

2017 年～2019 年の延べ相談件数の内訳を表 2-2-1 に示します。相談件数は、計 301 件でした。相談者は、本人のみが 59%、本人と家族の同伴が 22%、家族のみが 10%、本人と家族以外と同伴が 1%でした。相談の対象となったがん患者の年齢は、平均 52.7（標準偏差 10.1）歳であり、性別は男性が 50%でした。また、がん種は、乳房（19%）、大腸（14%）、血液（9%）、胃（9%）、肺（8%）の順に多かったです。そのうち、転移ありの患者は 21%であり、症状のある患者は 48%でした。

表 2-2-1.相談者の背景

		2017～2019 年度 (n=301)	
		n	%
がん患者の年齢	20 歳代以下	5	2%
	30 歳代	19	6%
	40 歳代	83	28%
	50 歳代	124	41%
	60 歳以上	70	23%
がん患者の性別	女性	151	50%
	男性	150	50%
相談会の参加者	1. 本人のみ	178	59%
	2. 家族のみ	43	14%
	3. 本人と家族と同伴	72	24%
	4. 上記以外	8	3%
がんの種類	乳房	56	19%
	大腸	41	14%
	血液	27	9%
	胃	26	9%
	肺	25	8%
	上記以外	126	42%
転移	あり	63	21%
症状	あり	144	48%

仕事に関する相談内容の内訳を図 2-2-2 に示します。仕事の相談で最も多いものは、就労相談（20%）であり、次いで上司とのコミュニケーション（19%）、復職相談（18%）、退職相談（17%）の順でした。

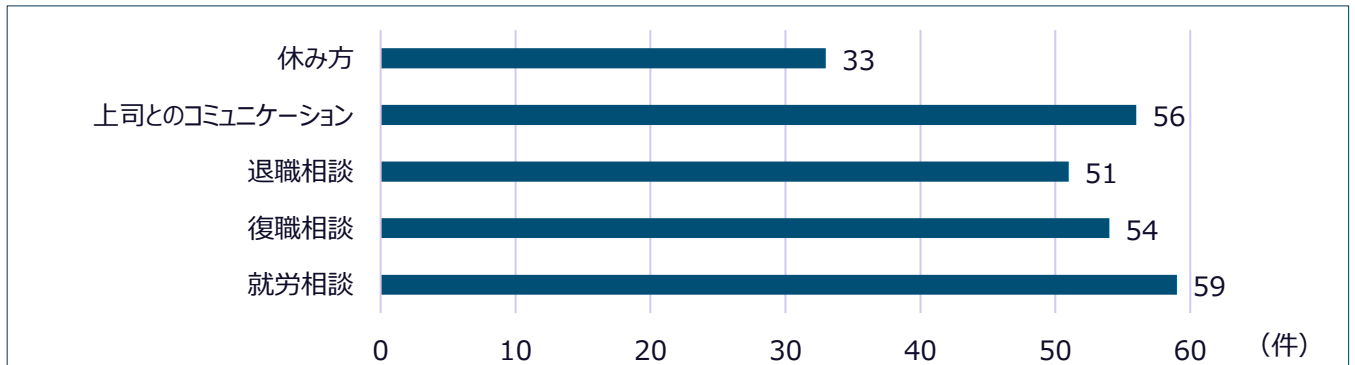


図 2-2-2 仕事に関する相談内容の内訳件数（複数選択）

経済的な問題に関する相談者は、約 8 割でした。経済的な問題に関する相談内容の内訳を図 2-2-3 に示します。制度・年金に関する相談で最も多いものは障害年金（n=107）で、次に、傷病手当金（n=95）、高額療養付加給付（n=41）、健康保険切り替え（n=37）の順でした。保険・家計に関する相談で最も多いものは、家計設計（n=77）で、次に、住宅ローン（n=43）、生命保険（n=38）、がん保険・医療保険（n=34）の順でした。他にも、上記項目に該当しない相談内容の内訳として、遺産相続（相続税）、医療費控除、労働災害保障、葬儀費用などの相談や、「何か利用できる制度はないか」といった相談も含まれました。

困りごとの時期は、現在および将来のこと（52%）、将来のこと（27%）、現在のこと（20%）でした。

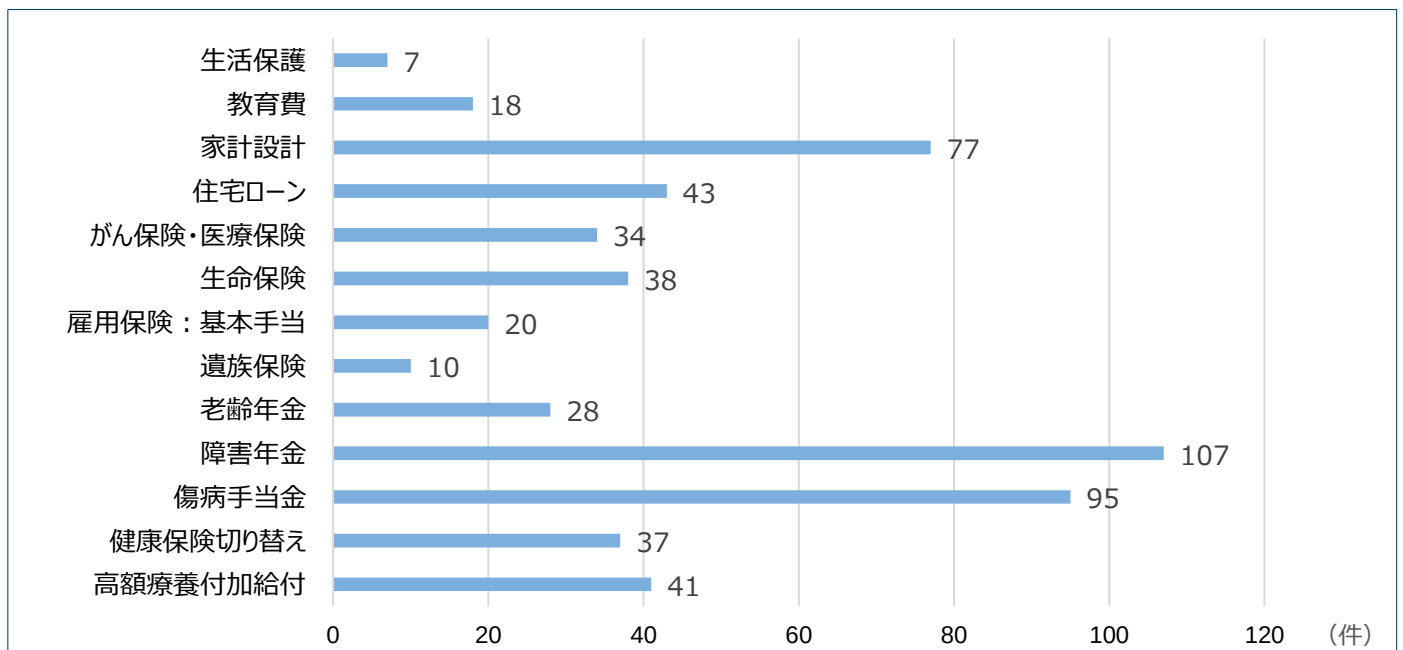


図 2-2-3. 経済的な問題に関する相談内容の内訳件数（複数選択あり）

次に、年度別の相談者の背景について表 2-2-2 に示します。相談件数は、2017 年は 79 件でしたが、2018 年が 82 件、2019 年は 140 件であり、年々、増加傾向でした。この背景には、相談事業を行う施設数が 2017 年 7 施設から 2019 年 11 施設に増加したことや、活動を継続することにより相談会の認知度が高まったことなどが考えられます。相談者は、いずれの年度も本人のみが約 5～6 割を占め、次いで本人と家族の同伴が 2～3 割でした。

表 2-2-2. 相談者の背景＜年度別＞

		2017 年度 (n=79)		2018 年度 (n=82)		2019 年度 (n=140)	
		n	%	N	%	n	%
年齢	20 歳代以下	0	0%	2	2%	3	2%
	30 歳代	3	4%	8	10%	8	6%
	40 歳代	26	33%	24	29%	33	24%
	50 歳代	30	38%	31	38%	63	45%
	60 歳以上	20	25%	17	21%	33	24%
性別	女性	37	47%	39	48%	75	54%
	男性	42	53%	43	52%	65	46%
相談会の参加者	1. 本人のみ	42	53%	48	59%	88	63%
	2. 家族のみ	18	23%	11	13%	14	10%
	3. 本人と家族と同伴	18	23%	23	28%	31	22%
	4. 上記以外	1	1%	0	0%	7	5%
がんの種類	乳房	10	13%	16	20%	30	21%
	大腸	11	14%	13	16%	17	12%
	血液	6	8%	4	5%	17	12%
	胃	6	8%	7	9%	13	9%
	肺	13	16%	6	7%	6	4%
	上記以外	33	42%	36	44%	57	41%
転移	あり	13	16%	14	17%	36	26%
症状	あり	50	63%	21	26%	73	52%

本調査では、相談会に相談に来ている方を対象にしているため、専門家に直接相談できる機会となっていることがわかります。一方で、先行研究では、仕事の問題に関して約半数は周囲に相談しないと回答しています⁴。そのため、仕事やお金

⁴ 「がんの社会学」に関する研究グループ：2013 がん体験者の悩みや負担等に関する実態調査報告書、2013
<https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10904750-Kenkoukyoku-Gantaisakukenkoukoushinka/0000129860.pdf>
 (2021 年 3 月 18 日アクセス)

の問題は自分自身の問題であると捉え、他者に相談せず一人で問題を抱えている可能性があります。仕事とお金の問題は、一番身近にいる家族であっても相談しづらい状況が存在するのかもしれません。

仕事に関する相談内容の内訳を図 2-2-4 に示します。2017 年では、退職相談（33%）が最も多く、次いで復職相談（29%）でした。がんにより仕事を辞めることを前提とした認識があることや、休職あるいは離職により一旦職場から離れざるを得ない状況が存在したことが伺えます。2018 年では、就労相談（27%）が最も多く、次いで上司とのコミュニケーション（20%）でした。2019 年では、上司とのコミュニケーション（20%）が最も多く、次いで就労相談（17%）でした。働き続ける中で生じる問題に対しての相談内容が多かったことから、がん患者が働き続けている状況が伺えます。また、就労相談や上司とのコミュニケーションの相談件数は、年々増加していました。

近年、がん患者の置かれている相談状況は、自宅（あるいは病院）から職場にシフトしています。以前は、働き続けること自体が困難な状況でしたが、年々、社会制度や就業規則などハード面が整備され、徐々に働き続ける患者が増加しています。結果として、働き続けることができるようになったが故に、働き続けることに関する問題が新たに生じ、上司とのコミュニケーションや就労相談も増加してくるのではないかと考えられます。

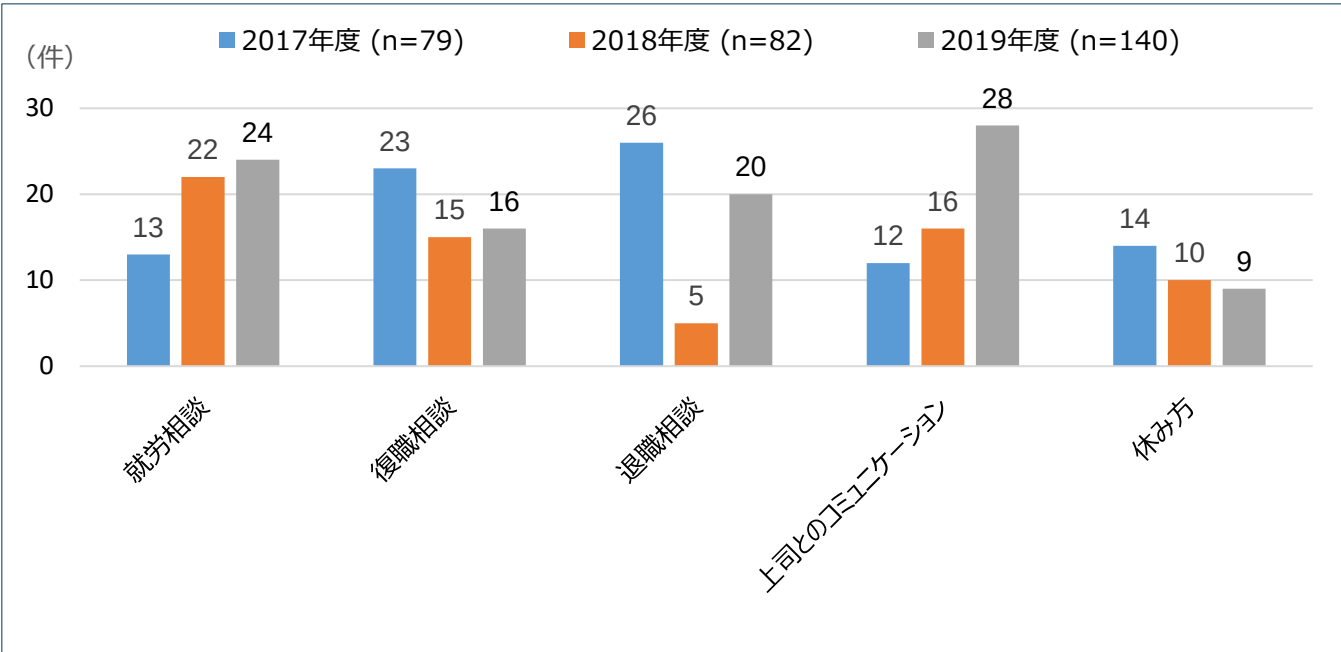


図 2-2-4 仕事に関する相談内容の内訳件数（複数選択あり）

経済的な問題に関する相談は、2017 年、2018 年は約 9 割、2019 年は約 6 割でした。仕事とお金の問題は強く関連し合っているため、経済的な問題を含めた相談事業を基本とした支援体制が重要です。現在、この個別相談事業は、社会保険労務士とファイナンシャルプランナーがペアとなり相談事業を担当しています。今後も、それぞれの専門家強みを生かし、支援を提供していくことが重要です。

制度・年金に関する相談内容の内訳を図 2-2-5 に示します。いずれの年度においても障害年金、傷病手当金の相談件数が多くみられました。その一方で、例えば高額療養費付加給付の相談件数は、年々、全体の相談総数が増えているにもかかわらず、減少する傾向がありました（2017 年 25% vs 2019 年 3%）。

このような相談内容の変化は、例えば、社会全体で制度や年金に対する理解が広まったり、制度や年金の変更や創設によっても影響を受けると考えられます。また、本相談事業の強みとして、対象病院毎に、年間を通して固定した相談員が相談事業を行っていることが挙げられます。制度や年金に関して病院スタッフの理解が深まることで、個別相談事業を利用しなくても、病院スタッフによって相談が可能になる場合もあります。相談員と病院スタッフの連携体制を築くことで、シームレスなコミュニケーションの機会が増え、対処方法などについて病院スタッフの皆様と一緒に理解を深める機会を作っていきたいと考えています。

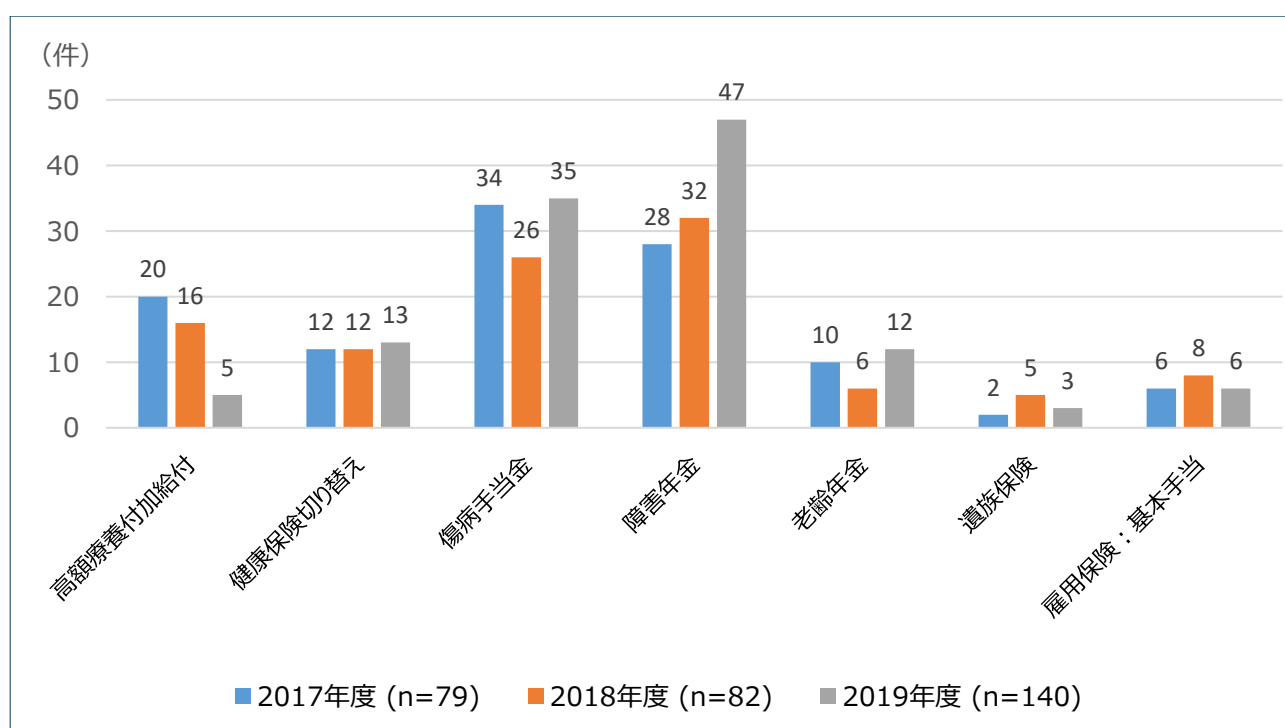


図 2-2-5. 制度・年金に関する相談内容の内訳件数（複数選択）

保険・家計に関する相談内容の内訳を図 2-2-6 に示します。2017 年では住宅ローン（22%）が最も多く、次いで家計設計（13%）、がん保険・医療保険（13%）の順でした。2018 年では家計設計（29%）が最も多く、次いで生命保険（20%）でした。2019 年では家計設計（31%）が最も多く、次いでがん保険・医療保険（12%）でした。また、家計設計の相談件数は、年々増加する傾向にあり、近年では最も相談件数が多い内容でした。お金の相談内容には、保険や制度活用など様々なものがあるため、相談内容に応じた支援が重要です。一方で、家計設計の相談に対しては、生活全体を視野に入れたトータルコーディネートによる支援が求められます。

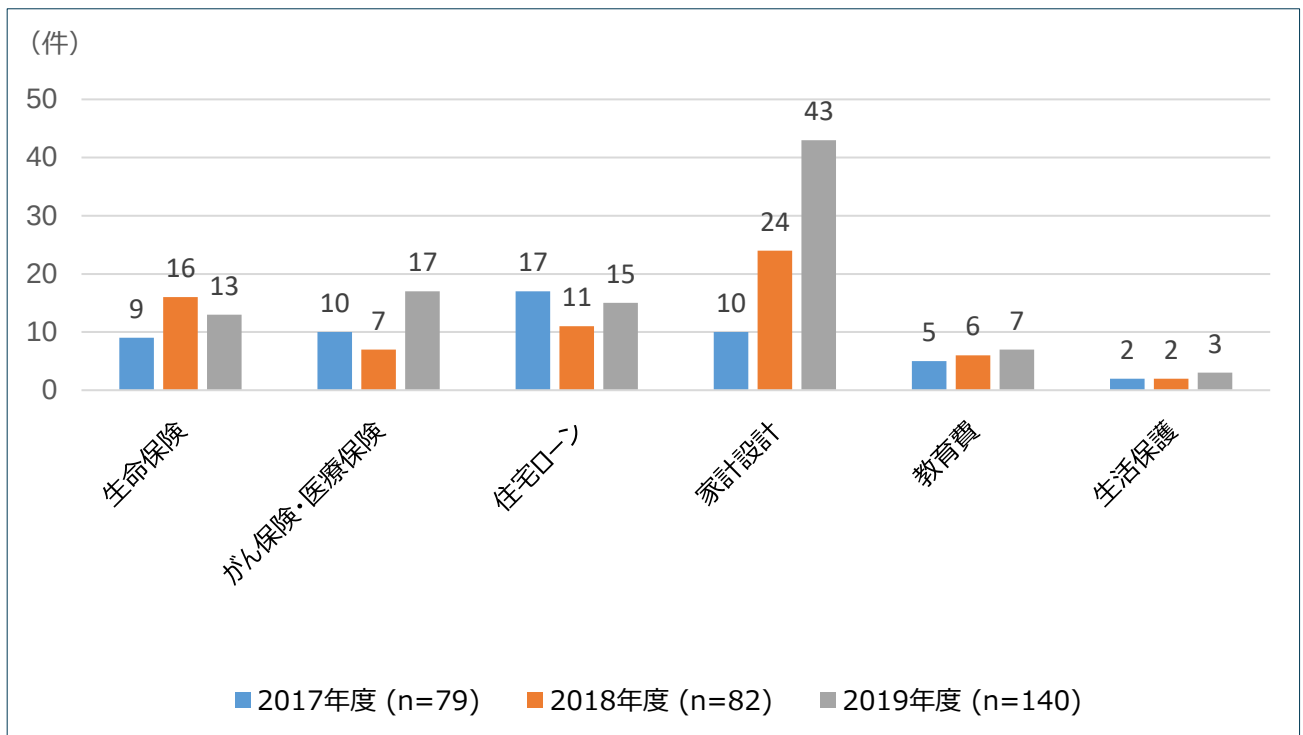


図 2-2-6. 保険・家計に関する相談内容の内訳件数（複数選択）

4) 非がん疾患における相談者・相談内容の内訳

2019 年度は、非がん患者の相談が 15 件ありました。相談者の背景として、疾患は、脳梗塞、脳出血、摂食障害、糖尿病、慢性膵炎、多発性筋炎、心サルコイドーシス、統合失調症、重症筋無力症、うつ病、不整脈、骨折でした。仕事に関する相談内容の内訳は、就労相談 1 件、復職相談 2 件、退職相談 1 件、上司とのコミュニケーション 2 件、休み方 1 件でした。制度・年金に関する相談内容の内訳は、障害年金 10 件、健康保険切り替え 2 件、老齢年金 1 件でした。保険・家計に関する相談内容の内訳は、家計設計 3 件、医療保険 1 件、生活保護 1 件でした。

5) 非がん疾患における支援について

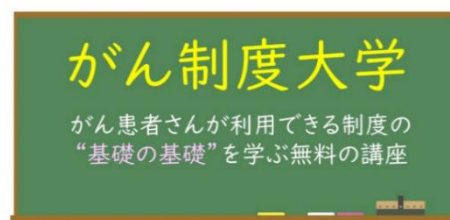
非がん疾患における支援については、活動初期のころから希望される声が上がっていました。しかし、限られたマンパワーと資源で行えることとしては、「まずは、がんから」という形で取り組んできました。

そういった中でも、医療機関のスタッフの方々から「●●の疾患の患者さんの相談を行ってもいいですか？」という声をいただいていたが、そういった声についても排除せずに取り組む姿勢が伝わり、ゆっくと非がん相談が増えている実情があります。

がん患者支援で得られた経験を踏まえて、対象の範囲を増やしていくことができればと思っています。

3. 講座「がん制度大学」

1) 講座「がん制度大学」とは



がん制度大学は、2019 年にがんと暮らしを考える会が直接がん患者に向けたレクチャーとして企画した活動です。

特徴としては、対話型とセミナー型の中間を目指し、30 分のミニレクチャーと 60 分の質疑応答で行っています。

1 年間に 2 クール同じ内容のレクチャーを行うことで、参加できなかった患者さんが、再度、聴講できるチャンスを担保するという方針で行いました。

2019 年前期は、がんと暮らしを考える会が港区在宅緩和ケア支援センターういケアみなとの会場を借りて開催し、2019 年後期は、がんと暮らしを考える会と港区在宅緩和ケア支援センターういケアみなとと共催で行いました。

2) 実施状況

日時	テーマ	参加者数
2019/06/07	第 1 期 休みの取り方・復職と傷病手当金	10
2019/06/21	第 1 期 障害年金と手続き	5
2019/07/05	第 1 期 派遣・契約社員の悩みごと	6
2019/07/19	第 1 期 60 代の年金と仕事	5
2019/08/02	第 1 期 再発した方が利用できる制度	8
2019/10/04	第 2 期 休みの取り方・復職と傷病手当金	21
2019/10/18	第 2 期 障害年金と手続き	19
2019/11/01	第 2 期 派遣・契約社員の悩みごと	17
2019/11/15	第 2 期 60 代の年金と仕事	17
2019/12/20	第 2 期 再発した方が利用できる制度	23

3) 講座内容

講座のテーマに関しては、過去 6 年間の病院における「お金と仕事の個別相談事業」において、社労士・ファイナンシャルプランナーが相談を受けた内容のうち頻度の多いものと、複雑なものから決められました。「がん制度大学」の名の通り内容については、利用できる制度の仕組みに関するレクチャーが主なものです。

対象者は、患者さん・ご家族を含めて誰でも参加できるようにしてありましたが、患者さんのほかに医療従事者も多数参加がありました。

講師は、がんと暮らしを考える会の相談員を務める社労士とファイナンシャルプランナーが行っています。

内容の深さについては、参加された方々の知りたい内容によって、フレキシブルに対応できるようにするため、質疑応答の時間を長く持つことにしました。書面での質疑応答を原則とし案内役としてファシリテーターという役割を置きました。

このファシリテーターの役割は、質問者の背景や意図を明確に伝え、他の参加者にとっても有益な情報となるよう、質問内容に演出を加える役割です。

4. 知恵を出し合う会（専門職向け）

がんと暮らしを考える会は、がん患者さん・家族を医療従事者とは異なる専門性を活かして支えることができるような専門家がともに知恵を出し合い、学び合う活動からはじまりました。そのため、社労士・ファイナンシャルプランナー・税理士・弁護士などが、医療従事者と一緒に勉強会を行うことで職種の相互理解と支援の在り方の共通の理念を持つことができるように継続してきました。

またそのような専門性を持つ専門家が、地域を超えて学び助け合う行うため、定期会の場を拡大した全国フォーラムを1年に1回、開催することになりました。

学びの場を準備する一方、実際の患者さんの相談を体験することは困難でした。そこで、埼玉県立がんセンター・順天堂大学医学部附属浦安病院の協力を得て、2名の相談員に加えてオブザーバー参加による学びの機会を設けることにしました。

1) 定期会

定期会は2011年の団体設立以前からの勉強会の流れを汲んでいます。

定期会のテーマは、裁判の判例に関する学びと就労問題に関する判例の紹介、離婚に伴う手続きや制度、就業規則、障害年金など具体的に難しい案件について、弁護士や社労士を講師として講義されています。

2019年度は、石川県・関西・東京の3か所で行いました。

日時	テーマ
2019/5/17	「がん患者の制度利用・就労問題に関連した判例とその影響について」 【講師】弁護士 山崎祥光
2019/6/8	石川県定期会「概論～図で考えるがん暮らし～」 【講師】賢見卓也（看護師）、近藤明美（社会保険労務士）
2019/7/12	関西定期会「意外とややこしい、がん患者さんの年金について」 【講師】石田周平（社会保険労務士）
2019/7/19	「がんと夫婦関係の危機」 【講師】黒田尚子（FP）、藤田久子（社会保険労務士）
2019/8/10	石川県定期会「就労にまつわる制度」 【講師】石田周平（社会保険労務士）
2019/9/27	業態と就業規則の特徴を考える 【講師】工藤和代（社会保険労務士）、齋藤明子（株式会社ポーラ）
2019/10/11	関西定期会「がん罹患者の経済的な問題の解決に向けて」 【講師】賢見卓也（看護師）、岡本英夫（FP）、有田敬三（FP）、草香有子（社会保険労務士）
2019/11/22	【講義】がん制度ドック公開更新検討会

2)全国フォーラム

全国フォーラムは兵庫医科大学病院と共催で行いました。

参加者は 55 名で、社労士・ファイナンシャルプランナー・看護師・弁護士などが参加しました。

基調講演は当時 杏林大学医学部付属病院 リエゾン精神看護師であった川名典子先生に「がん患者のメンタルケアの考え方 ～ストレス・バランス・モデルとコミュニケーション～」についてお話していただき、がん患者さんとの会話のポイントや心構えなどについて詳しく学ぶことができました。

また、事例発表では各地域の取り組みとして、奈良・愛知・東京での活動について発表しました。事例検討会では、防衛医科大学校看護学部的小林成光先生をファシリテーターとしてグループワークを行いました。

日時	テーマ
2020/1/25	がんと暮らしの相談事例全国フォーラム 2019 兵庫 基調講演「がん患者のメンタルケアの考え方」講師 川名典子（看護師） 事例発表・事例検討

3)オブザーバー制度

2019 年度の「お金と仕事の個別相談事業」の関係医療施設の増加に伴い、相談員の増員に合わせて、社労士・ファイナンシャルプランナー1 名ずつで、実際の相談の場に立ち会って見学することができました。

- ・ 順天堂大学医学部附属浦安病院 5 名
- ・ 埼玉県立がんセンター 3 名

第3章 巻末資料

1. 個別相談事業 実施機関

お金と仕事の個別相談事業 実施機関（2019年3月31日時点）

都道府県	機関名	活動期間
石川	石川県がん安心生活サポートハウス はなうめ	2014年度～
千葉	順天堂大学医学部附属浦安病院	2013年度～
埼玉	埼玉県立がんセンター	2014年度～
	防衛医科大学校病院	2017年度～
	さいたま赤十字病院	2017年度～
東京	国立国際医療研究センター	2017年度～
	虎の門病院	2018年度～
	東京都立駒込病院	2019年度～
	東京都立墨東病院	2019年度～
	港区がん在宅緩和ケア支援センター ういケアみなと	2019年度～
兵庫	兵庫医科大学病院	2013年度～

2. 活動・講演等

2019年度

日時	活動	内容
2019/4/6	出演	【出演】C B Cラジオ「北野誠のズバリサタデー」 【出演者】FP 黒田ちはる
2019/5/17	総会	【総会】2018年度会員総会 【講義】「がん患者の制度利用・就労問題に関連した判例とその影響について」 【講師】弁護士 山崎祥光
2019/6/2	イベント	【出展】ジャパンキャンサーサバイバースデー 2019
2019/6/8	定期会	【講義】石川県定期会「概論～図で考えるがん暮らし～」 【講師】賢見卓也（看護師）、近藤明美（社会保険労務士）
2019/7/12	定期会	【講義】関西定期会「意外とややこしい、がん患者さんの年金について」 【講師】石田周平（社会保険労務士）
2019/7/18	定期会	【講義】日本臨床腫瘍学会「がん暮らしを支える制度」 【講師】社労士 石田周平
2019/7/19	定期会	【講義】「がん夫婦関係の危機」

		【講師】黒田尚子（FP）、藤田久子（社会保険労務士）
2019/8/10	定期会	【講義】石川県定期会「就労にまつわる制度」 【講師】石田周平（社会保険労務士）
2019/8/18	イベント	【出展】ジャパンキャンサーフォーラム 【講義】「がん患者の障害年金」 【講師】石田周平（社会保険労務士）
2019/8/26	講演	【講義】日赤医療センター「治療と仕事を両立するために」 【講師】高石裕子（社会保険労務士）
2019/8/31	講演	【講義】キャンサーネットジャパン「治療と仕事を両立するために」 【講師】黒田ちはる（FP）
2019/9/4	講演	【講義】日赤医療センター「がん治療と仕事の両立」 【講師】賢見卓也（看護師）
2019/9/9	講演	【講義】世田谷区保健センター「がん患者の就労問題・経済的問題とその支援方法」 【講師】賢見卓也（看護師）
2019/9/27	定期会	【講義】業態と就業規則の特徴を考える 【講師】工藤和代（社会保険労務士）、齋藤明子（株式会社ポーラ）
2019/10/8	講演	【講義】墨東病院「緩和ケア学習会」 【講師】賢見卓也（看護師）
2019/10/11	定期会	【講義】関西定期会「がん罹患者の経済的な問題の解決に向けて」 【講師】賢見卓也（看護師）、岡本英夫（FP）、有田敬三（FP）、草香有子（社会保険労務士）
2019/10/16	講演	【講義】首都大学東京 認定看護師教育課程がん化学療法看護分野 【講師】賢見卓也（看護師）
2019/10/18	講演	【講義】カーディフ生命 社員向け研修 【講師】賢見卓也（看護師）
2019/10/16	講演	【講義】大分大学大学院医学系研究科 修士課程専門課程専門看護師コース 【講師】賢見卓也（看護師）
2019/11/9	定期会	【講義】石川県定期会「家計にまつわる制度」 【講師】黒田ちはる（ファイナンシャル・プランナー）、水戸聖子（税理士）
2019/11/15	講演	【講義】メットライフ生命 社員向け研修 【講師】賢見卓也（看護師）
2019/11/16	講演	【講義】鹿児島緩和ケアネットワーク「がん患者の社会的苦痛と社会的苦痛について」 【講師】賢見卓也（看護師）
2019/11/22	定期会	【講義】がん制度ドック公開更新検討会
2019/1/17	★受賞	★FA アワード 2019 受賞 ファイナンシャル・アドバイザー誌選考（近代セールス社）
2020/1/25	全国大会	がんと暮らしの相談事例全国フォーラム 2019 兵庫

2020/2/7	講演	【講義】東京女子大八千代医療センター「八千代緩和医療勉強会」 【講師】賢見卓也（看護師）
2020/2/15	講演	【講義】小児がん経験者ネットワークシェイクハンズ！の集い 【講師】黒田ちはる（ファイナンシャル・プランナー）

2018 年度 ※本白書の創刊号のため、2018 年度以前の情報も掲載

日時	活動	活動内容
2018/5/17	総 会	【総会】2017 年度会員総会 【講義】「子どものいるがん患者への支援」 【講師】FP 黒田尚子 社労士 山岸玲子
2018/6/3	イベント	【出展】ジャパンキャンサーサバイバースデイ 2018
2018/6/12	講演	【講義】千葉大学医学部附属病院主催「がん患者さんへの経済的サポート講座」 【講師】FP 黒田ちはる
2018/7/19	定期会	【講義】「がん以外の患者さんの支援」 【講師】社労士 石田周平 社労士 高石裕子
2018/7/21	講演	【講義】日本臨床腫瘍学会「がん暮らし ～仕事のこと、治療費のこと、支援制度のこと～」 【講師】社労士 石田周平
2018/7/21	講演	【講義】「働く世代、がん向き合うためのセミナー ～仕事も治療もあきらめない～」 【講師】社労士 山岸玲子 FP 黒田ちはる
2018/8/5	講演	【講義】「がん患者の仕事とお金 知っておきたい制度」 【講師】看護師 賢見卓也 社労士 山岸玲子
2018/8/11-12	イベント	【出展】ジャパンキャンサーフォーラム 【講義】「障害年金について」「収入の低下したがん患者さんの固定費を下げる方法」 【講師】社労士 石田周平 FP 黒田ちはる
2018/8/21	講演	【講義】千葉大学医学部附属病院主催「がん患者さんへの経済的サポート講座」 【講師】FP 黒田ちはる
2018/8/30	講演	【講義】第一生命保険株式会社主催研修「看護師 FP が伝える、がん治療中の生活と仕事の実情とは」 【講師】FP 黒田ちはる
2018/9/20	定期会	【講義】お金と仕事の個別相談会 事例検討会 【講師】社労士 藤田久子 金子信
2018/9/25	講演	【講義】築後緩和医療研究会主催「がん患者の経済的問題とケアの考え方」 【講師】FP 黒田ちはる

2018/9/30	イベント	【出展】ピンクリボンフェスティバル 2018 なかま cafe♪ 【講義】「がん罹患後の家計を再構築しよう」 【講師】看護師 賢見卓也
2018/9/30	講演	【講義】ノバルティスファーマ株式会社主催市民公開講座チームで支えるがん治療「がんとお金のはなし～制度と家計を考えよう～」 【講師】F P 黒田ちはる
2018/10/7	講演	【講義】日本 FP 協会主催 FP フェア 「患者とその家族からの相談事例～がん治療生活とライフプラン相談への対応策～」 【講師】FP 岡本英夫
2018/10/14	勉強会	【講義】「効果的なグループワークの進め方」 【講師】看護師 小林成光
2018/10/16	講演	【講義】千葉大学医学部附属病院主催「医療従事者のためのがん患者への経済的サポート講座」 【講師】F P 黒田ちはる
2018/10/17	講演	【講義】首都大学東京 認定看護師教育課程がん化学療法看護分野 【講師】看護師 賢見卓也
2018/10/23	講演	【講演】国立がん研究センターがん対策情報センターがんサバイバーシップ支援部主催 「がん罹患後の家計について～民間保険・住宅ローン・医療費控除～」【講師】看護師 賢見卓也 FP 岡本英夫
2018/10/27	研修	【講義】近代セールス社主催 FP 継続教育セミナー「FP に求められる、がん患者へのアドバイス講座」「がん罹患後の家計の見直し講座」 【講師】F P 岡本英夫 黒田尚子
2018/10/28	講演	【講義】大分大学大学院医学系研究科 修士課程専門課程専門看護師コース 【講師】看護師 賢見卓也
2018/11/10	講演	【講義】杏林大学「がんと共にすこやかに生きる」講演会シリーズ第 5 回「がん患者の就労支援」 【講師】看護師 賢見卓也
2018/11/15	定期会	【講義】「就労支援の診療報酬の半年間」 【講師】社労士 近藤明美
2018/12/8	講演	【講義】株式会社エムアイエス主催「看護師でファイナンシャルプランナーだから伝えられる！『がん』と『お金』のはなし」 【講師】FP 黒田ちはる
2018/12/11	講演	【講義】千葉産業保健総合支援センター主催「治療と就労の両立支援セミナー～がん患者さんの困りごと「仕事やお金」について」 【講師】社労士 宮沢佳子 FP 黒田ちはる
2019/1/19	講演	【講義】NHK 厚生文化事業団主催 フォーラム「がんと生きる」パネラー登壇 【講師】看護師 賢見卓也

2019/1/26	全国大会	がんと暮らしの相談事例全国フォーラム 2018 東京
2019/2/5	講演	【講義】東京都立駒込病院主催「がん患者さんが利用できる制度について学ぶ～経済的な側面から～」 【講師】社労士 石田周平
2019/2/6	講演	【講義】東京都立墨東病院主催「お金と暮らしの相談会」 傷病手当金・障害年金の活用 【講師】社労士 石田周平、FP 岡本英夫
2019/3/9	研修	【講義】近代セールス社主催 FP 継続教育セミナー「FP に求められる、がん患者へのアドバイス講座」「がん罹患後の家計の見直し講座」 【講師】F P 岡本英夫 黒田尚子

2017 年度

日時	活動	内容
2017/5/18	総 会	【総会】2016 年度会員総会 【講義】個人情報保護法の改正について 【講師】弁護士 山崎祥光
2017/6/30	講演	【講義】カーディフ生命「がん患者が陥る経済的危機への認識」 【講師】看護師 賢見卓也
2017/7/20	定期会	【講義】お金と仕事の個別相談会 事例検討会 【講師】相談員 社労士 石田周平・FP 岡本英夫
2017/7/20	講演	【講義】メットライフ生命「がんになる前の備え なってからの備え」 【講師】看護師 賢見卓也
2017/7/29	講演	【講義】日本臨床腫瘍学会「がんと暮らし」 【講師】看護師 賢見卓也
2017/8/20	講演	【講演】ジャパンキャンサーフォーラム 「定年後のがんとお金」 【司会】社労士 近藤明美 【講師】社労士 石田周平
2017/9/21	定期会	【講演】「住宅ローンの返済が困難ながん患者の支援について」 【相談員】FP 山本秀利
2017/9/29	講演	【講演】すみだくpinkリボン「がんにおける家計と暮らし」 【講師】看護師 賢見卓也
2017/10/7	講演	【講演】都民向け公開講座「がんになる前の備え がんになってからの備え」 【講師】社労士 石田周平 F P 岡本英夫
2017/10/11	講演	【講義】首都大学東京 認定看護師教育課程 「がん患者と家族が活用できる社会資源」 【講師】看護師 賢見卓也
2017/10/31	講演	【講義】さいたま赤十字病院「がん患者の社会的苦痛へのアプローチ」

		【講師】賢見卓也 FP 岡本英夫 社労士 近藤明美
2017/11/1	講演	【講義】S-QUE「がん患者および家族への社会的支援」 【講師】看護師 賢見卓也
2017/11/11	全国大会	がん暮らしの相談事例全国フォーラム 2017 東京
2017/12/16	講演	【講義】国立国際医療研究センター市民公開講座「がんを抱えながら働き続けるために」 【講師】社労士 近藤明美 FP 黒田ちはる
2017/12/21	定期会	【講演】「介護保険とケアマネジャーとがん患者の経済的な問題について」 【相談員】川原貴美子 居宅介護支援事業所パリアン
2018/1/28	講演	【講義】緩和医療学会教育セミナー「がん患者の経済的な問題とケアの考え方」 【講師】看護師 賢見卓也
2018/2/3	講演	【講義】杏林大学 がんと共にすこやかに生きる講演会 「がん対策政策、制度、お金」 【講師】看護師 賢見卓也
2018/3/31	講演	【講義】日本対がん協会 がんサバイバー・クラブ主催 「がんになってからの暮らし～家計と外見ケアについて～」 【講師】看護師 賢見卓也
2018/3/31	講演	【講義】「FPに求められるがん患者へのアドバイス講座 がん罹患後の家計の見直し基礎講座」 【講師】FP 岡本英夫 黒田尚子 黒田ちはる

2016 年度

日時	活動	活動内容
2016/5/19	総 会	【総会】2015 年度会員総会 【講義】治療と仕事の両立支援に関するガイドラインについて考える 【講師】社労士 近藤明美
2016/6/16	関西 定期会	【講義】がん相談に必要な公的扶助の正しい知識 【講師】西宮市厚生第一課 職員
2016/7/21	セミナー	【講義】がん患者が入れるがん保険・医療保健 【講師】FP 竹下さくら
2016/7/29	講演	【講義】日本臨床腫瘍学会学術集会「 がん暮らし 」 【講師】理事長 賢見卓也 、 社労士 近藤明美
2016/8/6	講演	【講演】ジャパンキャンサーフォーラム「 がん家計 」 【講師】FP 黒田尚子 社労士 石田周平 司会 賢見卓也
2016/8/28	講演	【講演】みんなで知ろうがんフェスティバル 【講師】FP 岡本英夫

2016/9/10	イベント	【講演】リレーフォーライフ埼玉「 がん暮らし～生活の再構築～ 」 【講師】看護師 賢見卓也 FP 岡本英夫
2016/9/17	関西 定期会	【講義】がん患者の就労支援のための産業保健の基礎知識 【講師】産業保健師 今島 直子
2016/9/23	講演	【シンポジウム】サイコオンコロジー学会「 ～社会的苦痛の軽減を目指して～ 」 【講師】看護師 賢見卓也
2016/10/1	講演	【講演】兵庫県がん相談支援センター実務者向け研修 【講師】看護師 賢見卓也 社労士 石田周平
2016/10/5	イベント	【イベント】がん対策アクション&ピンクリボン in すみだ 2016 相談コーナー「出張がん相談支援センター」 【相談員】社労士 石田周平
2016/10/13	講演	【講義】首都大学東京 認定看護師教育課程 「がん患者と家族が活用できる社会資源」 【講師】看護師 賢見卓也
2016/10/17	定期会	【講義】がんと障害者手帳について考える 【講師】社労士 石田周平
2016/10/23	講演	【講義】豊島区対策推進特別講演会「 がんになってからの家計を考える 」 【講師】看護師 賢見卓也
2016/11/2	講演	【講義】メットライフ生命 オープンセミナー「がん暮らし～FP の皆様と共に～」 【講師】看護師 賢見卓也
2016/11/5	全国大会	がん暮らし相談事業全国フォーラム 2016 兵庫
2016/11/11	講演	【講義】カーディフ生命 「がん罹患者が陥る経済的危機への認識」 【講師】看護師 賢見卓也
2016/12/7	講演	【講義】東京商工会議所 「企業の備えとして考える“がん治療と仕事を両立するための対策”」 【講師】看護師 賢見卓也
2016/12/15	定期会	【講義】「がん患者の住宅ローン返済の支援方法について考える」 【講師】黒田ちはる
2017/3/16	定期会	【講義】「がん制度ドック 2017 年公開 更新 検討会」 【司会】賢見卓也

2015 年度

日時	活動	内容
2015/4/14	講演	【講義】メットライフ生命「がんになる前の備え、なつてからの備え」 【講師】理事長 賢見卓也

2015/4/16	定期会	【講義】がん治療とお金の問題のセーフティネット生活保護について学ぶ 【講師】港区生活福祉調整課 職員
2015/5/21	総 会	【総会】2014 年度会員総会 【講義】60～65 歳までのがん患者の生活設計について考える 【講師】社労士 近藤明美
2015/6/18	定期会	【講義】ひとり暮らしのがん患者さんの困り・備え・利用できる制度について考える 【講師】看護師 賢見卓也 、 FP 川崎由華 、 社労士 渡邊ひろみ
2015/7/4	講演	【講義】関西臨床腫瘍研究会特別講演 「図で考える患者の就労支援」 【講師】看護師 賢見卓也
2015/7/16	定期会	【講義】図で考えるがん患者さんの就労支援 【講師】社労士 藤田久子
2015/8/8	講演	【講義】アキバキャンサーフォーラム「がんの家計」 【講師】FP 岡本英夫 、 社労士 石田周平
2015/8/20	講演	【講義】メットライフ生命「がんになる前の備え、なってからの備え」 【講師】理事長 賢見卓也
2015/8/20	定期会	【講義】在宅ホスピスにおける社会的苦痛とそのケアの目的 【講師】クリニック川越 川越厚
2015/8/22	定期会 大阪	【講義】自営業・派遣/契約社員・主婦のがんと暮らしについて考える 【講師】FP 川崎由華 、 社労士 渡邊ひろみ
2015/9/17	定期会	【講義】マイナンバーと社会保障とがん暮らしについて 【講師】弁護士 山崎祥光
2015/10/15	定期会	【講義】可能性を持つ制度としてがんと民事信託について考える 【講師】FP 岡本英夫
2015/11/7	全国大会	がん暮らしの相談事業全国フォーラム 2015 金沢
2015/11/19	定期会	【講義】乳がん患者さんの暮らしの悩みについて学ぶ 【講師】聖路加国際大学大学院看護学研究科 研究員 大坂和可子
2015/11/27	講演	【講義】日本肺癌学会学術集会 患者・家族向けプログラム「がん暮らし（お金・仕事）」 【講師】理事長 賢見卓也
2015/12/12	定期会 大阪	【講義】がん患者さんの就労支援の現場から 【講師】社労士 近藤明美

2015/12/21	定期会	【講義】MSW の仕事と社労士との連携について学ぶ 【講師】三井記念病院 MSW 尾方欣也
2016/1/21	定期会	【講義】がん患者の保険の診断書について考える 【講師】FP・がん患者 小野瑛子、メットライフ生命 深田知輝、 帝京大学病院 腫瘍内科医 森竜久
2016/1/30	講演	【講義】埼玉県立がんセンター第5回がん看護公開講座 がん患者の暮らしを支えるための知識と支援の方法を学ぶ 【講師】理事長 賢見卓也
2016/2/18	定期会	【検討】学びながらみんなで改訂する「がん制度ブック」 【司会】理事長 賢見卓也
2016/3/17	定期会	【講義】がん患者さんの負担や不安になる住宅ローンについて考える 【講師】住宅ローンアドバイザー 谷口 敬
2016/3/26	定期会 大阪	【講義】相談業務に役立つ障害年金のいろは 【講師】社労士 石田周平

2014 年度

日時	活動	活動内容
2014/4/17	定期会	【講義】がん保険の今と昔～古いがん保険を活かす方法を考える～ 【講師】CFP 竹下さくら
2014/5/15	総 会	【総会】2014 年度会員総会 【講義】石綿健康被害救済制度について 【講師】環境再生保全機構 篠原泰
2014/6/18	講演	【講演】兵庫医科大学病院がん相談支援センター 「がん治療生活を支える～仕事とお金のお悩み相談会～キックオフ講演会」 【講師】看護師 賢見卓也 FP 川崎由華
2014/6/19	定期会	【講義】がん患者の社会的苦痛を緩和する 専門家の懇談会 【講師】看護師 賢見卓也 社労士 近藤明美 FP 岡本英夫 弁護士 山崎祥光
2014/7/17	定期会	【講義】がん患者さんの心理状態と接し方・マナーについて 【講師】看護師 山口聖子 社労士 藤田久子
2014/7/18	定期会 中止	【講義】がん患者を支えるための遺言と相続の実際 【講師】三菱 UFJ 信託銀行 執行役員 灰谷健司
2014/7/26	講演	【講義】いしかわでがんと暮らしを考えよう「がんとお金」 【講師】看護師 賢見卓也

2014/8/21	定期会	【講義】診断書の書き方と医師の意見 【講師】医師 森竜久 社労士 石田周平 保険代理店 藤田雄一他
2014/9/5	講演	【講義】日本医療マネジメント学会青森支部学術集会 「がん患者の社会的な苦痛軽減の取組みと多職種連携」 【講師】看護師 賢見卓也
2014/9/18	定期会	【講義】企業とがん患者の就労について 【講師】清水敏明、社労士 近藤明美、看護師・産業保健師 梅田里衣
2014/9/27	講演	【講義】いしかわでがんと暮らしを考えよう「がんと仕事」 【講師】社労士 近藤明美
2014/9/27	講演	【講義】順天堂大学医学部附属浦安病院あおべかサロン「働くがん患者さんへ」 【講師】社労士 石田周平
2014/9/27	講演	【講義】リレーフォーライフ東京上野啓発テント 【講師】吉田智美
2014/10/1	相談会	墨田区がん対策アクション&ピンクリボン in すみだ 【相談員】社労士 石田周平
2014/10/16	定期会	【講義】「がん患者の就労等に関する実態調査」の概要について 【講師】東京都福祉保健局 松尾知成
2014/11/17	事例検討	石川でがんと暮らしを考えよう事例～検討会～ 看護師・産業保健師 梅田里衣
2014/11/20	定期会	【講義】がん患者さんの悩みについて～電話相談の現場から～ 【講師】国立がん研究センターがん対策情報センター 櫻井雅代
2014/12/05	講演	大阪大学医学部附属病院第 11 回市民フォーラム「がん治療と仕事の継続について」 【講師】看護師 賢見卓也
2014/12/18	定期会	【講義】これまでの相談事業と今後の展望 【講師】岡本英夫、石田周平、川崎由華、渡邊ひろみ、賢見卓也
2015/1/15	定期会	【講義】「自営業」の方のがんと暮らしを考える 【講師】岡本英夫、石田周平
2015/1/31	事例検討	石川でがんと暮らしを考えよう～事例検討会～ 【講師】看護師 賢見卓也
2015/2/19	定期会	【講義】「主婦」の方のがんと暮らしを考える 【講師】岡本英夫、石田周平
2015/3/1	学会	日本がん看護学会学術集会 賢見卓也、池原弘展、梅田里衣、山口聖子 【ポスター】がん患者への情報提供と経済的支援を目指したネットの活用 ～「がん制度ドック」の解説と有用性の検討～

2015/3/8	セミナー	【セミナー】がん患者の経済的苦痛（お金・仕事）に関する「がん制度ドック」活用セミナー 【講師】近藤明美、岡本英夫、石田周平、賢見卓也
2015/3/19	定期会	【講義】「派遣・契約社員」の方のがんと暮らしを考える 【講師】近藤明美、石田周平

2013 年度

日時	活動	内容
2013/4/7	作業部会	・サイト情報整理作業部会 制度情報の作成・アルゴリズムの作成
2013/4/18	定期会	・サイト情報整理 制度情報の確認・アルゴリズムの確認 ・サイトイメージ決定 ・「緩和ケア」掲載準備
2013/5/16	定期会	・サイト最終行程確認と資料整理 ・支援サービスの意見交換
2013/6/20	発表	・オレンジサークルアワード受賞式参加
2013/6/22	発表	・緩和医療学会にてポスター発表
2013/6/22	展示	・リレーフォーライフ新横浜にて「がん制度ドック」を展示
2013/7/4	登記	・特定非営利活動法人がんと暮らしを考える会 登記完了
2013/7/11	定期会	・がん制度ドックと NPO 法人化の報告 ・大学病院との企画について
2013/8/9	パーティー	・NPO 化と Web 公開記念パーティー
2013/8/15	定期会	・がん制度ドック更新プロジェクト準備 ・大学病院との相談会、講演会準備
2013/9/9	サイト更新	・がん制度ドック更新プロジェクト始動しました。
2013/10/14	講演	・大阪にて FP 向けがん患者支援セミナー
2013/10/17	定期会	・がん制度ドック更新プロジェクト準備 ・大学病院との相談会、講演会準備 ・関西での活動準備状況
2013/11/2	発表	・日本死の臨床研究会ポスター展示
2013/11/21	定期会	・相談事業の報告 【講義】これまでの取組みと今後の相談事業について 【講師】理事長 賢見卓也

2013/12/19	定期会	・相談事業の報告 【講義】がん治療の積極的治療～緩和ケアのプロセスについて 【講師】クリニック川越 副院長・医師 中島一光
2014/1/16	定期会	【講義】社労士・FP によるがん患者相談会の現状について 【講師】FP 岡本英夫、社労士 石田周平
2014/2/7	講演	日本がん看護学会アドバンスセミナー 【講師】看護師 賢見卓也
2014/2/20	定期会	【講義】患者相談会の事例について 【講師】FP 岡本英夫、社労士 石田周平、社労士 近藤明美
2014/2/23	講演	FP だからできるがん患者のための支援 【講師】FP 岡本英夫、看護師 賢見卓也
2014/3/8	セミナー	看護師・MSW 向けの「がん制度ドック」の紹介と経済的苦痛について 【講師】FP 岡本英夫、社労士 石田周平、 社労士 近藤明美氏、看護師 賢見卓也
2014/3/20	定期会	【講義】相続の基本と、法律上の家族の扱い（説明や同意、依頼） 【講師】弁護士 山崎祥光

2012 年度

日時	活動	内容
2012/4/19	第 6 回がんと暮らしを考える会	・近藤明美氏にて「退職に伴う制度の整理」 ・藤田雄一氏にて「民間任意保険関連のインタビューシート」について。
2012/5/17	第 7 回がんと暮らしを考える会	・弁護士 山崎祥光氏より「弁護士とは、代行と後見人、個人情報保護法について」講義。 ・サイトの運用について。 ・ファイザーヘルスケアリサーチ助成金について。
2012/6/21	第 5 回オレンジサークルアワード	ポスター発表、最終選考・授賞式参加
2012/7/19	第 8 回がんと暮らしを考える会	・石田周平氏にて「障害年金、遺族年金について」。 ・ファイザーヘルスケアリサーチ助成金について。
2012/8/30	第 9 回がんと暮らしを考える会	・氏木大貴氏にて「がん保険の歴史」について ・助成金に関する報告
2012/9/20	第 10 回がんと暮らしを考える会	・近藤明美氏「介護休業給付金制度」について ・今後の活動について

2012/10/18	第 11 回がんと暮らしを考える会	・水戸聖子氏「がんと事業承継」について ・サイト掲載情報のまとめ
2012/11/15	第 12 回がんと暮らしを考える会	・青海社「緩和ケアリンク」掲載について ・サイト作成と今後の運営の在り方について
2012/12/20	第 13 回がんと暮らしを考える会	・サイト作成に関する情報整理について ・助成金について ・作業ルール作成とスケジュール作りについて
2013/1/17	第 14 回がんと暮らしを考える会	・法人化に関して策定
2013/2/21	設立総会	・特定非営利法人設立総会
2013/3/11		・NPO 法人申請書提出
2013/3/21	定期会	・サイト情報整理 制度情報の作成
2013/4/7	作業部会	・サイト情報整理作業部会 制度情報の作成・アルゴリズムの作成
2013/4/18	定期会	・サイト情報整理 制度情報の確認・アルゴリズムの確認 ・サイトイメージ決定 ・「緩和ケア」掲載準備

2011 年度

日時	活動	活動内容
2011/3/24	プレスト企画 「医療・生命 保険・制度を つなぐ」	がんという疾病に関連して放置されている社会資源・制度について、有効に利用できるような方法の検討について、看護師 山口聖子氏・弁護士 山崎祥光氏・編集者 飛田浩康氏・編集者 仁科典子氏にブレインストーミングを呼び掛け、時間をかけて検討することから発足。
2011/5/11	プレスト企画 「医療・生命 保険・制度を つなぐ」	賢見が持っている情報を共有。4 事例を羅列し、リビングニーズ特約の調査データを共有。日本医科大学病院 MSW 中村信一郎氏より「MSW の役割と現状。」についてご説明をいただく。

2011/6/10	プレスト企画 「医療・生命 保険・制度を つなぐ」	社労士 近藤明美氏より「社会保険労務士について。」講義していただく。制度として障害年金・傷病手当金について詳しく説明を受ける。
2011/7/25	プレスト企画 「医療・生命 保険・制度を つなぐ」	統計を専門家より、これまでの活動情報の蓄積と整理方法の提案。フレームワーク利用する。また、「会」の運営に関するフレームワークも提案され、採用となる。会の名前が決定。
2011/9/15	第 1 回がんと 暮らしを考える 会	元近代セールス社 FP 講師である岡本英夫氏をお招きし、「FP の役割と現状に関して」講義していただく。看護師 賢見の事例をフレームワークを利用して整理してみる。
2011/10/20	第 2 回がんと 暮らしを考える 会	看護師 賢見卓也よりフレームワークを利用して 2 事例を検証。今後のアウトプット方法に関して、看護師 山口聖子氏から助成金利用・仁科典子氏から出版物の利用などが議論にあがる。情報の精査のため、事例の量を増やす必要性があり、参加者をオープンにすることも検討。
2012/1/17	第 3 回がんと 暮らしを考える 会	24 年度に向けて、会の運営に関する役割分担を決定。オレンジサークル参加について説明。社会保険労務士 近藤明美氏より退職に伴う制度整理・質問紙・事例紹介実施。
2012/2/14	第 4 回がんと 暮らしを考える 会	FP 講師 岡本英夫氏より、「医療と税務」に関する講義を行っていただきました。
2012/3/15	第 5 回がんと 暮らしを考える 会	会の目的と活動方針を明文化し採択されました。 生命保険代理店 藤田雄一氏「生命保険代理店の事例」に関する講義を行っていただきました。

3. メディア掲載情報

2019 年度

2019 年 4・6 月	C B C ラジオ	黒田ちはる「北野誠のズバリサタデー」「今週のここ掘れニュース」
2019 年 5 月	E テレ	賢見卓也「TV シンポジウム」
2019 年 9 月	NHK BS プレミアム	賢見卓也・黒田尚子「がんで繋がる」
2020 年 1 月	オノオンコロジー	医療施設における就労支援：兵庫医科大学病院（相談会の実際）

2018 年度 ※本白書の創刊号のため、2018 年度以前の情報も掲載

2018 年 6 月	朝日新聞	賢見卓也「高額化するがんの医療費 支援制度を活用して負担軽減を」
		山崎祥光「身寄りのない人の法律上の能力と財産管理・相続」
2018 年 6 月	青海社「緩和ケア」	黒田ちはる「お金はあるけど身寄りのない人の財産をどう管理するか？」
2018 年 7 月	メヂカルフレンド社 「看護技術」	賢見卓也「看護師だからできる！ がん患者の就労支援」
2018 年 12 月	毎日新聞	賢見卓也「がん大国白書 その日に備えて」
	サンデー毎日	賢見卓也・近藤明美・石田周平 「告知から最期まで時系列で徹底解説！ がんになっても「暮らせる」「働ける」制度」
	照林社「緩和ケア はじめの一步」	賢見卓也「経済的な問題」「社会的苦痛へのケア」
2019 年 1 月	青海社「緩和ケア」	賢見卓也「患者さんから制度や家計の相談を受けるとき：院外のリソース」 近藤明美「がん患者の治療と仕事を両立するための社内制度と公的制 度」
	文藝春秋	石田周平・岡本英夫「がんになったら頼りたい『お金』の制度」
2019 年 2 月	女性自身	賢見卓也・石田周平「高額医療費を取り戻す 申請＆手続きマニュアル」
2019 年 3 月	読売新聞	賢見卓也 フォーラム「がんと生きる～こころとからだ 私らしく～」

2017 年度

2017 年 4-9 月	時事通信社	賢見卓也 連載「がんの家計」全 12 回
2017 年 5 月	近代セールス社 「Financial Adviser」	賢見卓也「がんになると何に悩むのか」 黒田尚子「がん罹患者特有の事情を踏まえた相談時の対応ポイント」 山岸玲子「がん罹患時に受けられる公的保障を再確認する」 岡本英夫「収入減で住宅ローン返済が負担になった場合の対応策」
2017 年 5 月	南山堂「薬局」	賢見卓也 がん患者のココロを支える「がん患者の経済的な悩みへの支 援」

2017 年 6 月	東京新聞	黒田尚子・黒田ちはる「がんへの備え 家計運営も 不安除き 治療に専念」
	週間朝日 MOOK 「大腸がんと診断されました」	賢見卓也「お金で困った」
2017 年 8 月	世界文化社「家庭画報」	賢見卓也「100 歳まで「生涯現役」健康長寿で迎えるために 50 代から始めること」
2017 年 9 月	週間朝日 MOOK 「胃がんと診断されました」	賢見卓也「お金で困った」
	訪問看護ステーションニュース	賢見卓也「がん患者の経済的問題～困りごとと備えの整理～」
2017 年 11 月	青海社「緩和ケア」	賢見卓也「緩和ケア口伝―現場で広がるコツと御法度―がん患者の就労、経済的問題に関する相談のコツ」
2017 年 12 月	毎日新聞	賢見卓也「若年がん 在宅療養、支援拡充を 患者ら呼び掛け 呼応する自治体も」

2016 年度

2016 年 4 月	近代セールス社 「Financial Adviser」	賢見卓也「がん患者・家族の生活や資産の悩みに総合的に応えられる F P の存在が必要」
2016 年 5 月	近代セールス社 「Financial Adviser」	岡本英夫「納めすぎとなった税金を取り戻す医療費控除の活用ポイントを押さえる」
2016 年 6 月	近代セールス社 「Financial Adviser」	近藤明美「がん患者の収入減少を補う傷病手当金の正しい情報を伝える」
	週間東洋経済	黒田尚子、賢見卓也・川崎由華・石田周平「がんとお金」
2016 年 7 月	近代セールス社 「Financial Adviser」	石田周平「がん患者の経済的苦痛をやわらげる障害年金の認定基準等を押さえよう」
	南江堂 「がん看護」	池原弘展「働く世代のがん患者へ経済的支援を目指した情報提供サイト『がん制度ドック β 版』の利用状況の分析」
2016 年 8 月	近代セールス社 「Financial Adviser」	黒田尚子「再構築が必要なのは罹患後よりも退職後。がん患者の退職後のライフプランを考える」
2016 年 9 月	文化放送 「キャンサーカフェ」	石田周平「がん患者の経済的な問題と当法人の活動について」

	近代セールス社 「Financial Adviser」	藤田久子「将来的な生活設計のひとつとして知っておきたい遺族年金の知識と実際」
2016 年 10 月	メヂカルフレンド社 「看護技術」	賢見卓也「お金の問題/就労の問題」
	近代セールス社 「Financial Adviser」	川崎由華「お金や仕事の問題といった社会的苦痛の緩和も治療の一貫」
2016 年 11 月	近代セールス社 「Financial Adviser」	黒田ちはる「医療と家計面の連携が深まると患者の治療生活の充実が図れる」
	北海道新聞	賢見卓也「がんを防ごう 第 8 部 お金の問題＜6＞ 支援策 専門家が助言」
2016 年 12 月	近代セールス社 「Financial Adviser」	水戸聖子「経営者の突然の病気に備えて『相続』の基本的な知識を伝える」
	婦人公論	賢見卓也「制度を使えば負担は変わる！ 治療にかかるお金、還ってくるお金」
2017 年 1 月	近代セールス社 「Financial Adviser」	谷口敬「相談の裏に隠された住宅ローン。正しい団信の知識が相談のポイント」
	河北新聞	賢見卓也「がん対策まずは社長から」
2017 年 2 月	近代セールス社 「Financial Adviser」	木村美代「悩みごとがぼんやりしている段階からゆっくりと信頼関係を築いていく」
	週間朝日 MOOK 「乳がんと診断されました」	賢見卓也「お金で困った」
2017 年 3 月	近代セールス社 「Financial Adviser」	山崎祥光「個人情報に細心の注意を払いながら より質の高い相談業務を提供する」

2015 年度

2015 年 4 月	メヂカルフレンド社 「看護技術」	近藤明美「患者の職場の制度：その②雇用保険」
2015 年 5 月	朝日新聞「5/28」 全国版	がん新時代 高額療養費見直し

	メヂカルフレンド社 「看護技術」	賢見卓也、石田周平「65 歳未満でも利用できる年金：障害年金」
	東京新聞「6/4」	がんとお金知って
	近代セールス社 「Financial Adviser」	藤田久子、石田周平、加藤明子「社会保険」を活かしたリスクマネジメント
2015 年 6 月	メヂカルフレンド社 「看護技術」	賢見卓也「臨床ではだれも教えてくれない制度①：生命保険」
2015 年 7 月	女性自身	賢見卓也、加藤明子「困ったときの一時金を取りっぱぐれるな！」
	メヂカルフレンド社 「看護技術」	岸あさこ「臨床ではだれも教えてくれない制度②：医療保険・がん保険」
2015 年 8 月	メヂカルフレンド社 「看護技術」	賢見卓也「残された家族のためにできること：事業承継」
	週間東洋経済	賢見卓也・川崎由華「知っておきたい医療負担」
	週間朝日ムック	賢見卓也・黒田尚子「がんで困ったときに開く本」
2016 年 1 月	学研メディカル秀潤 社「ナースینگキャン バス」	賢見卓也「授業では教えてくれない!?医療と『お金』の話」

2014 年度

2014 年 4 月	医学書院「週刊 医学界新聞」	「がん制度ドックで治療と生活の両立を支援」
2014 年 5 月	青海社「緩和ケア」	石田周平「障害年金とは」
2014 年 6 月	神戸新聞「6/2 朝 刊」	がん患者の家計、社労士らが応援 兵庫医大病院
2014 年 7 月	メヂカルフレンド社 「看護技術」	「経済的問題」「就労問題」
	青海社「緩和ケア」	石田周平「障害年金とは」アドバンス編
2014 年 8 月	近代セールス社 「Financial Adviser」	Q&A がん罹患者の経済的苦痛をやわらげる 看護師、社会保険労務士、FP による対応事例集
	読売新聞「8/22 朝刊」	がん患者の悩み、専門家が助言・・・兵庫医大
	DIAMOND ONLINE	医療保険の給付金を左右する医師の「診断書」 スムーズに発行してもらうための 3 つのポイント
2014 年 9 月	青海社「緩和ケア」	石田周平「障害年金とは」請求と認定要領編
2014 年 10 月	学研「月刊ナース ィング」	賢見卓也「知っておきたい がんの『お金』に関する制度 ナースができる情 報提供」

2014 年 11 月	青海社「緩和ケア」	石田周平「障害年金とは」診断書の作成
2015 年 1 月	メヂカルフレンド社 「看護技術」	賢見卓也「ケアとして知っておきたい経済的問題と役立つ制度」
	読売新聞「1/31」	がん患者 経済支援サイト…保険、福利厚生制度を紹介
2015 年 2 月	学研「月刊ナーシング」	賢見卓也編集「がん患者の経済的・社会的問題でナースがサポートできること」
	日経新聞「2/9」	治療と仕事、職場で両立 産業医が同席する企業も
	メヂカルフレンド社 「看護技術」	加藤明子「整理してみる 健康保険の機能」
	朝日新聞「2/14」 関西版	がん患者、お金の制度手引き NPOが無料サイト
	FM ちやお	川崎由華「バレンタインデー特集 大切な人ががんになったら?！」
2015 年 3 月	南江堂「がん看護」	働き世代のがん患者の社会的苦痛～制度・仕事～

2013 年度

2013 年 6 月	日本緩和医療学会	「若い乳がん患者の社会的苦痛（経済的苦痛）に取り組んだ事例」
2013 年 7 月	読売新聞 夕刊 7/11「支える」	「がん制度ドック」と「がんと暮らしを考える会」
2013 年 8 月	保険毎日新聞 8/22	「がん制度ドック」と「がんと暮らしを考える会」
2013 年 9 月	共同通信社 9/10	「がん患者支援サイト始動」
	青海社「緩和ケア」	「リビングニーズ特約」利用からみたがんの諸制度の活用
	青海社「緩和ケア」	社会保険労務士・ファイナンシャルプランナーと医療者との協働で作成した「がん制度ドック」
2013 年 10 月	エビデンス社 「がんサポート」	「聞いて！私たち患者の声」
	近代セールス社 「Financial Adviser」	巻頭「FP opinion」
	KBS 京都ラジオ	笑福亭晃瓶のほっかほかラジオ
2013 年 11 月	日本死の臨床研究会	「社会的苦痛に特化した専門家チーム（看護師・FP・社労士・税理士・弁護士）の取り組み」
	医薬経済社「医薬経済」	Patient Relations「がん制度ドック」
2014 年 3 月	青海社「緩和ケア」	らしんばん「終わらない看護の“Act Locally”」

2012 年度

2013 年 2 月	青海社「地域緩和 ケアリンク」	「がんに関する制度・保険のピットフォール と活用の見つけ方」
------------	--------------------	--------------------------------

4. お金と仕事の個別相談事業・集計表

4.1. 年度別集計（2017～2019 年度）【対象：がん患者 301 人】

1) 対象者

2017～2019 年度の「お金と仕事の個別相談事業」（以下、個別相談事業）で相談に来られた方すべての方

2) データの収集方法

個別相談事業では、相談を担当した社労士・ファイナンシャルプランナーが、相談ごとにサマリーシートを作成しています。本白書は、サマリーシートに記載された自由記述等のデータを使用し、集計にあわせて記述内容をコーディングし分類しました。なお相談者には、個別内容について活動報告等の目的で集計結果を公表する場合があることについて、事前に説明をし、同意を得ています。

3) 集計結果を解釈するときの注意点

- ・ サマリーシートのデータは、診療録から収集した客観的なデータではなく、相談者から聴取したデータです。そのため、診断名や転移の有無、症状の有無などの医学的な情報は、相談者の自己報告および相談員の解釈に基づくものです。また、転移の有無や症状など病気や治療に関わる内容に関しては、相談者が話したくない場合や相談内容に直接関わらない場合などでは、サマリーシートには詳細に記載されない場合があります。
- ・ 仕事とお金の相談内容に関するデータは、相談を担当した社会保険労務士およびファイナンシャルプランナーが聴取した内容に基づいて記述されたもので、相談者の相談内容から専門家の立場で助言・提案した内容も含まれます。
- ・ 仕事の相談では、就労相談、復職相談、退職相談、上司とのコミュニケーション、休み方の項目に分類し集計を行いました。なお、上司とのコミュニケーションや休み方の項目に関しては、他の項目に包含される場合もあります。また、就労相談には、再就職の相談や就労継続の相談なども含まれます。本集計は、サマリーシートのデータから分類したものであり、実際の相談の場の会話を全て分析の対象としているわけではないため、その点にご留意ください。
- ・ お金の相談では、相談事業の活動等の経験から、頻度が高いと思われるものを項目として抽出し、データをカテゴリー化し分類しました。時代の変化とともに新たな内容が相談に含まれたり、頻度は低くても重要な内容もあるため、次年度以降の白書でも取り上げていきたいと思います。

		2017 年度 (n=79)		2018 年度 (n=82)		2019 年度 (n=140)		2017～2019 年度 (n=301)	
		n	%	n	%	n	%	n	%
年齢	20 歳代以下	0	0%	2	2%	3	2%	5	2%
	30 歳代	3	4%	8	10%	8	6%	19	6%
	40 歳代	26	33%	24	29%	33	24%	83	28%
	50 歳代	30	38%	31	38%	63	45%	124	41%
	60 歳以上	20	25%	17	21%	33	24%	70	23%
性別	女性	37	47%	39	48%	75	54%	151	50%
	男性	42	53%	43	52%	65	46%	150	50%
相談会の参加者	1. 本人のみ	42	53%	48	59%	88	63%	178	59%
	2. 家族のみ	18	23%	11	13%	14	10%	43	14%
	3. 本人と家族と同伴	18	23%	23	28%	31	22%	72	24%
	4. 上記以外	1	1%	0	0%	7	5%	8	3%
がんの種類	乳房	10	13%	16	20%	30	21%	56	19%
	大腸	11	14%	13	16%	17	12%	41	14%
	血液	6	8%	4	5%	17	12%	27	9%
	胃	6	8%	7	9%	13	9%	26	9%
	肺	13	16%	6	7%	6	4%	25	8%
	子宮	5	6%	6	7%	10	7%	21	7%
	脾臓	8	10%	6	7%	5	4%	19	6%
	脳・中枢神経系	4	5%	3	4%	5	4%	12	4%
	口腔・咽頭	5	6%	4	5%	2	1%	11	4%
	骨軟部	1	1%	2	2%	8	6%	11	4%
	不明	1	1%	6	7%	3	2%	10	3%
	腎・尿路	3	4%		0%	5	4%	8	3%
	卵巣	1	1%	3	4%	4	3%	8	3%
	食道		0%	3	4%	1	1%	4	1%
	胆のう・胆管	2	3%	1	1%	1	1%	4	1%
	上記以外（肝および管内胆 管、白血病、膀胱、小腸、前 立腺、皮膚、甲状腺など）	3	4%	2	2%	13	9%	18	6%
転移	あり	13	16%	14	17%	36	26%	63	21%
症状	あり	50	63%	21	26%	73	52%	144	48%
相談内容	就労相談	13	16%	22	27%	24	17%	59	20%
	復職相談	23	29%	15	18%	16	11%	54	18%
	退職相談	26	33%	5	6%	20	14%	51	17%
	上司とのコミュニケーション	12	15%	16	20%	28	20%	56	19%
	休み方	14	18%	10	12%	9	6%	33	11%

		2017 年度 (n=79)		2018 年度 (n=82)		2019 年度 (n=140)		2017～2019 年度 (n=301)	
		n	%	n	%	n	%	n	%
経済問題	あり	72	91%	73	89%	89	64%	234	78%
	高額療養付加給付	20	25%	16	20%	5	4%	41	14%
	健康保険切り替え	12	15%	12	15%	13	9%	37	12%
	傷病手当金	34	43%	26	32%	35	25%	95	32%
	障害年金	28	35%	32	39%	47	34%	107	36%
	老齢年金	10	13%	6	7%	12	9%	28	9%
	遺族保険	2	3%	5	6%	3	2%	10	3%
	雇用保険：基本手当	6	8%	8	10%	6	4%	20	7%
	生命保険	9	11%	16	20%	13	9%	38	13%
	がん保険医療保険	10	13%	7	9%	17	12%	34	11%
	住宅ローン	17	22%	11	13%	15	11%	43	14%
	家計設計	10	13%	24	29%	43	31%	77	26%
	教育費	5	6%	6	7%	7	5%	18	6%
	生活保護	2	3%	2	2%	3	2%	7	2%
困りごとの時期	現在のこと	36	46%	11	13%	14	10%	61	20%
	将来のこと	40	51%	8	10%	34	24%	82	27%
	両方	3	4%	63	77%	92	66%	158	52%

がんと暮らしの白書 2019

発行年月日 2021 年 3 月 31 日 第 1 版第 1 刷©

編集 がんと暮らしを考える会

発行責任者 賢見卓也 がんと暮らしを考える会 代表

編集協力 池原弘展 敦賀市立看護大学

小林成光 防衛医科大学校

友滝愛 国立看護大学校

発行者 がんと暮らしを考える会

<https://www.gankura.org/>

※本書の内容の複写・複製・転載は、事前にお問い合わせください